

11月6日、ついに入館者数が3万人を超えました

11月6日に、4月29日の開館日以降に来館された皆様の累積数が3万人を超えました。

開館翌月の5月以降、1日の平均入館者は、毎月100人を超え、8月には205人と最多の方に来館いただいています。また、10月までは、団体で来られる方より個人の方が多かったのですが、秋に入り、団体の人数が増え、11月は、個人の方の人数より多くなりました。

11月までの団体数の構成としては、自治会、公民館（コミュニティセンター）、婦人会、各種サークルなど成人の皆さんの団体数が約80%を占めており、小学校が約12%、残りが中学、高校・高専、大学となっています。また、地域別での団体数を見ると、県内が約84%（うち、富山市内が約45%）、他の都道府県が約14%、海外（韓国、中国、アメリカ、ドイツ、ノルウェーなど）が約2%でした。団体の約半数がガイドンス映像、語り部講話等で学びを深めていただきました。



より効果的な資料館運営をめざして、「第1回資料館運営会議」を開催

このたび、より円滑で効果的な資料館運営を行うことを目的に幅広い意見をお聴きする「富山県立イタイイタイ病資料館運営会議」を設置しました。メンバーは、資料館整備・運営会議の委員として、これまで資料館設置に深く関わってこられた学識経験者や関係団体の代表の方々に加え、新たに学校教育関係者として小、中学校それぞれの校長会から委員を選出していただきました。

座長には資料館の顧問でもある谷修一氏（国際医療福祉大学名誉学長）が、副座長にはイタイイタイ病の副読本を監修された水上義行氏（富山国際大学子ども育成学部教授）が就任されました。

11月27日に開催された第1回目の会議では、開館以降、順調に入館者数が推移してきていることが評価されました。一方、夏休みに実施した子ども向けイベントの参加者があまり多くなかったことについて、日程の設定やPRの方法などが指摘され、教育委員会や学校との連携、メールマガジンを活用した広報など、積極的な誘客策についての提案をいただきました。

こうした提案を踏まえ、今後とも来館された方々のご意見なども十分把握しながら、よりよい資料館運営ができるよう努めていきます。